

## 教員から重要メールが転送されないことと対策について

【ご意見・ご要望】(投稿日:2021年9月27日)

意見要望の概要:TA や予定停電など、学生の生活や研究に関わる事務からのメールは教員だけでなく直接学生にも連絡してほしいです。

以下詳細です。

人間環境学研究科棟で9/26(日)に予定停電があったのですが、その連絡は事務から教員のみで学生にはありませんでした。また非常電源機器の申請も毎年6.7月にあるそうですが、そのメールも教員へのみで学生にはありません。そして僕の教員は去年からどちらも学生に転送せず周知されておられません。

今回、研究室周りにケーブルが設置されているのを見て予定停電があるらしいことに気づいたのですが、教員から何も聞いてないので非常電源が欲しかったものを停電せざるを得なくなりしました。

今回はたまたま研究に大きく影響しないものでしたが、「もし大事なサンプルが入ってたら...、もし停電があったことを知らず実験結果が変わってたら...」と思うとゾッとします。

もちろん教員がちゃんと学生に転送すればよいのですが、僕の教員は去年の停電連絡も転送しなかったです。

TA も【重要】と書いてあるのに転送連絡が遅く、申請が間に合いませんでした。基本的に事務からのメールの転送はありません。

教員に事務能力があるかは別なので、こういう人がいるのを分かってください。また、しっかりしている人でも忘れてしまうことは十分あります。

教員にはすぐに転送してほしいことを伝えましたが、おそらくソフト対策の注意では改善されません。しかし、先生方も忙しく、転送が必要なメールが毎回判断するのが面倒なのも想像できますので、事務側では早急に以下のようなハード対策をお願いしたいです。

提案ですが、

「TA や停電など、学生に知らせるのが必要、かつ知らせても問題ない内容

(・教員に送っても結局学生に転送するようなもの(停電など)

・結局学生が対応する可能性のあるもの(薬品棚卸しなど)

・転送しなければ学生が理不尽な思いや不利益を被るもの(TA 申請など))

は直接学生にも連絡する」のはできないのでしょうか。

できないならできない理由は何でしょうか。もしくはしないメリットの方が大きいならそれを論理的に説明してほしいです。

停電は研究に明らかに影響を与えるかなり重要なものです。なのに、研究している学生に直接周知しないメリットは何でしょうか？

学生にも連絡があれば本来対処できた不都合の責任は学生にいきますが、教員から転送されず不都合が生じた場合は教員(と場合によっては事務)に責任がいきます。謝罪で済めばいいですが、今回の停電など研究に関わるものはそうでない場合(長期実験の失敗など)も起こり得ます。TAの連絡が遅く申請できなかった時は、完全に僕の責任ではないのに生活費として予定していたお金を得ることができず、転送しなかった教員と、TAの申請期間があって締切が近いことを周知しなかった事務を恨みました。学生にとっては自分のせいだと思えるほうが精神的に健全です。

全学での対策検討、本当によろしく願いいたします。

【回答】(回答日:2021年10月25日)

(回答部署:教育推進・学生支援部、人間・環境学研究科)

学生のみなさんへの連絡方法は、案件の内容等によって各部局で定められており、従って全学で画一的な取り扱いは行っておりません。

以下、人間・環境学研究科からの回答です。

(人間・環境学研究科からの回答)

情報提供ありがとうございます。

ご指摘のとおり、学生の生活や研究に関わることであり、重要な連絡だと思います。

人間・環境学研究科では、今回のご意見を受け停電予定日について学生のみなさんにもメールでお知らせすることにしました。また、先日開催された教授会において各研究室における連絡を徹底するよう研究科長から各教員に依頼を行いました。